

# 令和2年度 事業報告書

特定非営利活動法人 くすの木自然館

## 1. 事業の方針

コロナの影響があり、大きなイベントや室内でのイベントができない中、小さな単位でのエコツアーの普及や新規ツアーの開発などに力を入れた。特に、国立公園での誘客・ワーケーション推進事業により、新規ツアーを作ることができたことはおおきな成果となった。

観光や教育の在り方が変わったため、オンラインでの授業や、コロナ禍での学校教育へ柔軟に対応できた。

大学との連携やオンラインでの授業等で地元にいることの多くなった大学生たちの研修の受入れも行った。「人と野生生物が無理なく共生できる世の中」や「SDGsの達成する社会」の考え方をもてる人材を増やすことができた。

### 【主な事業】

#### ① 「重富海岸自然ふれあい館 なぎさミュージアム」委託管理

地域に根差した国立公園の展示施設として、コロナ禍でもそれなりの方に来館いただいた。しかし、下半期に持ち直したもののGWや夏休みの来館者の激減が響き、年間利用者は減少した。

#### ② 鹿児島県共生・協働センター運営委託事業

「鹿児島県共生・協働センター」の運営委託管理事業。

昨年度の取り組みをもとに、「鹿児島県」「かごしま天文館総合研究所 Ten-Lab」との3者協働により、鹿児島における共生・協働の在り方を推進できる施設としての企画・展示を行うことができた。

また、NPO 法人の法令部分をつかさどる窓口としても、2年以上の経験を踏まえ担当スタッフの知識や対応も板につき、より専門的な窓口業務を行うことができた。

#### ③ 国立公園への誘客推進事業・国立公園でのワーケーション推進事業

環境省の補正予算による補助金事業。コロナ終息後に、国立公園を活用した観光や「ワーケーション」を推進できるように、整備を行う事業。錦江湾エリアを活用した持続可能なツアーの在り方を提唱し、環境負荷の少ないツアーを行っている団体とともにネットワークやE-bikeを活用した新たなエコツアーを作成することができた。

④ 桜島錦江湾ジオパーク編成における事務局との様々な協力

2021年2月に始良と垂水へジオパークエリアが拡大した。今年度は、コロナ禍ということもあり、大きな活動はなかったが、小規模なイベントやジオ資源の調査を行うことができた。

⑤ LOVE BLUE 助成 鹿児島湾奥地域における湿地帯保全活動

3年間地球環境基金から受けた助成期間の最終年度であった。しかし、コロナの影響で、公民館講座や清掃活動等が行えず、大きな成果を出すことはできなかった。錦江湾奥の生物相の調査としては、一定の基礎データを収集することができた。

⑥ 主催事業

コロナの影響を大きく受け、エコツアーは利用者が減少した。錦江湾学習会は、完全屋外の少人数対応としたが、開催回数は例年の3分の1以下だった。しかし、開催できた内容については、参加者の評価は高かった。

⑦ 物販の充実と販路の拡大

今年度より、生き物立体パズルや垂水の姫甘えびの燻製など、持続可能な未来につながるような内容の商品を仕入れ、販売したことや、手ぬぐいを活用したマスクの販売を行ったことで、物販の売り上げは大きく上がることもできた。